食の安全・安心に係る県民アンケート調査結果

和歌山県　食の安全局　食品安全企画課

１　調査の目的

食は生命の根源であり、健康の維持・増進に欠かすことのできないものです。しかし、幅広い年齢層に食生活の乱れが指摘されており、食べることへの認識改善が求められています。また近年、食に関する事件が相次ぎ、消費者の食に対する関心は大きく高まっています。

つきましては、県民が食に対してどのような意識を持っているのかを把握し、今後の施策に反映させていく目的でアンケート調査を実施しました。

なお、同様の調査は３年前の平成１５年度にも実施しています。

２　調査時期

平成１８年１１月１５日～１２月３１日

３　調査項目の概要

１）調査対象者の概要（性別・年齢層・職業・在住地域）	〈問１～問４〉
２）食品に対する不安の有無とその要因	〈問５～問９〉
３）食品の安全性に関する基礎知識	〈問１０〉
４）食品購入時に重視する点	〈問１１〉
５）食品表示について	〈問１２～問１４〉
６）「地産地消」及び食品情報の入手について	〈問１５～問１７〉
７）HACCP 及びトレーサビリティについて	〈問１８～問２０〉
８）食の安全性向上に重要なこと	〈問２１〉
９）食育について	〈問２２～問２４〉
１０）重要とする行政施策及び意見等	〈問２５～問２６〉

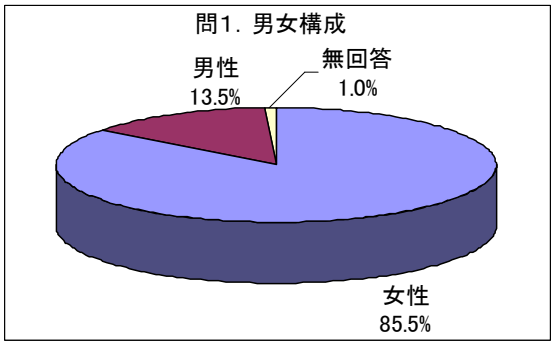
４　調査数及び回答者

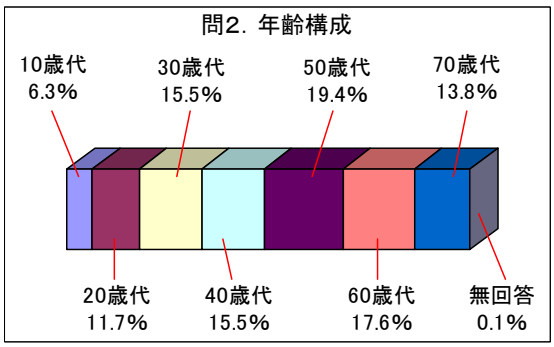
調査対象は日常的に食品を購入されている県民の方

依頼アンケート調査数　１，０００名	有効回答数　９４１名	有効回答率　９４．１％

５　調査結果

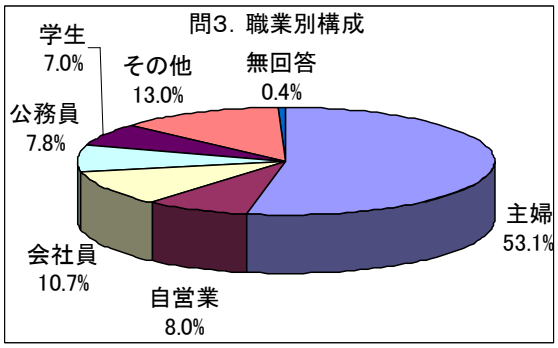
１）調査対象者の概要

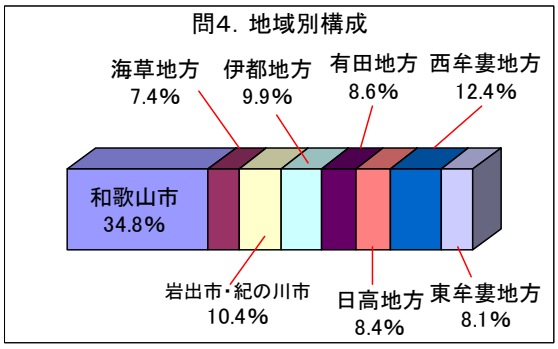




女　性：８５．５％（８０５名）
男　性：１３．５％（１２７名）
無回答：１．０％（９名）

10 代*：6.3 ％（59 名）　50 代：19.4 ％（183 名）
20 代：11.7 ％（110 名）　60 代：17.6 ％（166 名）
30 代：15.5 ％（146 名）　70 代：13.8 ％（130 名）
40 代：15.5 ％（146 名）　無回答：0.1 ％（1 名）
＊ 10 代は 15 ～ 19 歳





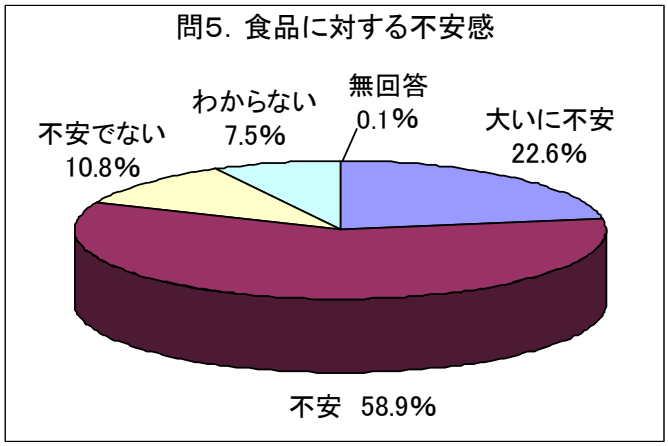
主婦：53.1％(500 名)　自営業：8.0％(75 名)　会社員：10.7％(101 名)公務員：7.8％(73 名)　学生：7.0％(66 名)　その他：13.0％(122 名)　無回答：0.4％(4 名)

和歌山市：34.8％(327 名)　海草地方：7.4％(70 名)　岩出市・紀の川市：10.4％(98 名)　伊都地方：9.9％(93 名)　有田地方：8.6％(81 名)　日高地方：8.4％(79 名)　西牟婁地方：12.4％(117 名)　東牟婁地方：8.1％(76 名)

２）食品に対する不安の有無とその要因

問５．あなたは、食品の安全性に不安を感じていますか？（１つ選択）

日常の食生活の中で、食品に対して**不安を感じている方が全体の８１．５％**で、そのうち「大いに不安を感じている」と回答した方は２２．６％でした。



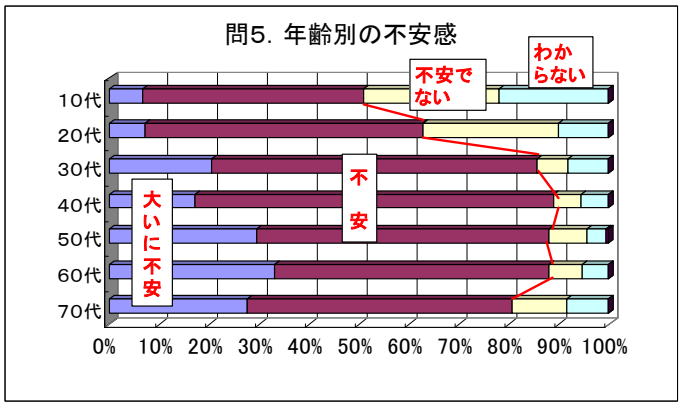
①大いに不安を感じている
２２．６％（２１３名）

②不安を感じている
５８．９％（５５４名）

③不安を感じていない
１０．８％（１０２名）

④わからない
７．５％（　７１名）

⑤無回答
０．１％（　　１名）

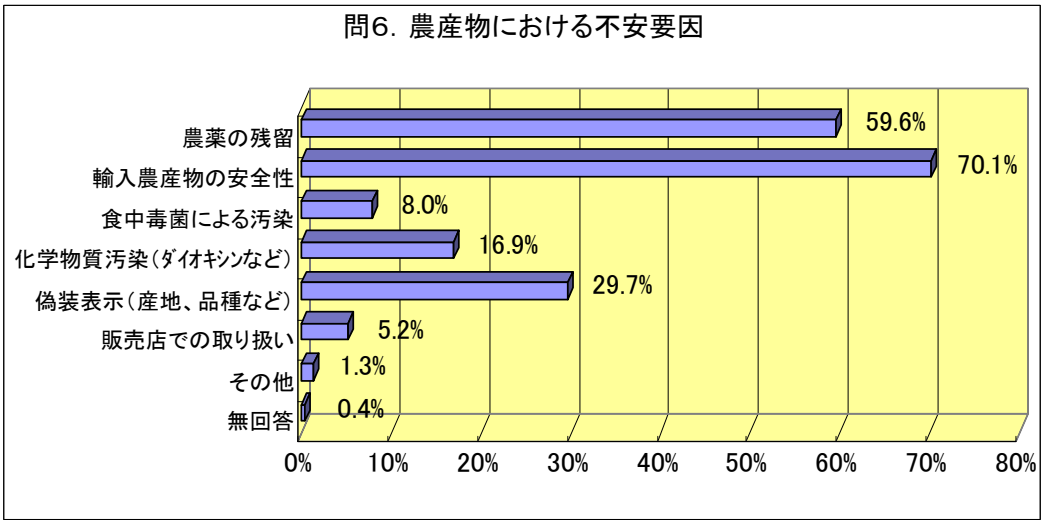


食品に対する不安感を年齢別にみると、「大いに不安」もしくは「不安」と答えた方が、10 代では 50.8 %、20 代 62.7 %、30 代 85.6 %、40 代 89.0 %、50 代 88.0 %、60 代 88.0 %、70 代 80.8 %であり、40 代までは年代が上がる程高くなっています。

30 代以上のどの世代でも食品への不安感が 80 %を越えていますが、これは家庭を持つ世代が家族の健康を守るため、食の安全への関心が高くなることの現れではないかと考えられます。

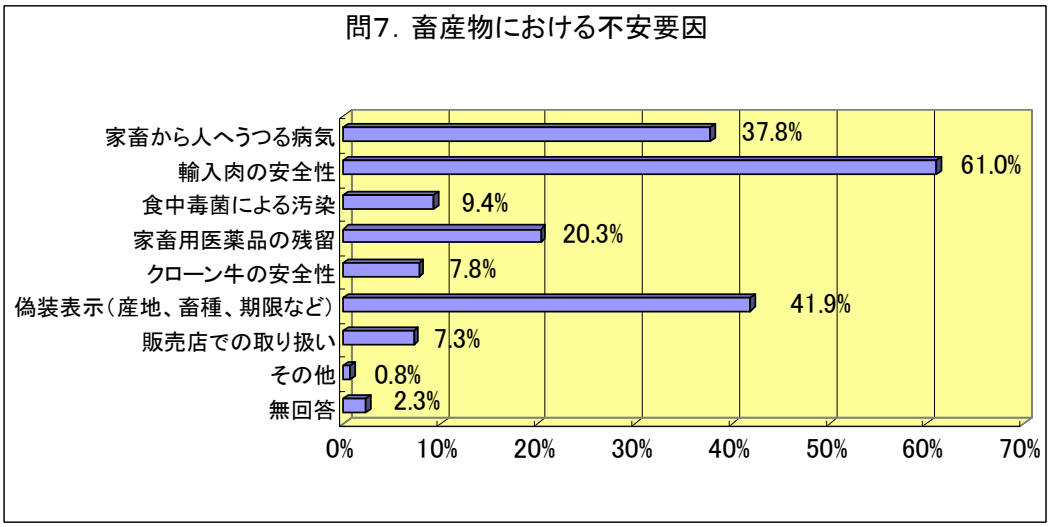
問６．問５で①～②と答えた方で、農産物（生鮮野菜・果物・米など）を購入する際、次にあげる項目で特に不安を感じているものはどれですか？
（２つ以内選択）【回答者数：７６７名　総回答数：１，４６７】

食品に対して不安を感じている方（７６７名）の内、農産物における不安の要因としては１番目が**「輸入農産物の安全性」**の７０．１％（５３８名）、２番目が**「農薬の残留」**の５９．６％（４５７名）で、この２項目のどちらかを選択した方は９０．６％（６９５名）とほとんどを占めました。３番目は**「偽装表示」**で２９．７％（２２８名）でした。
輸入農産物の安全性と農薬の残留に対する不安が強いのは、中国産野菜等からの基準値を超える残留農薬の検出がしばしば報道されたことなどが影響しているものと考えられます。



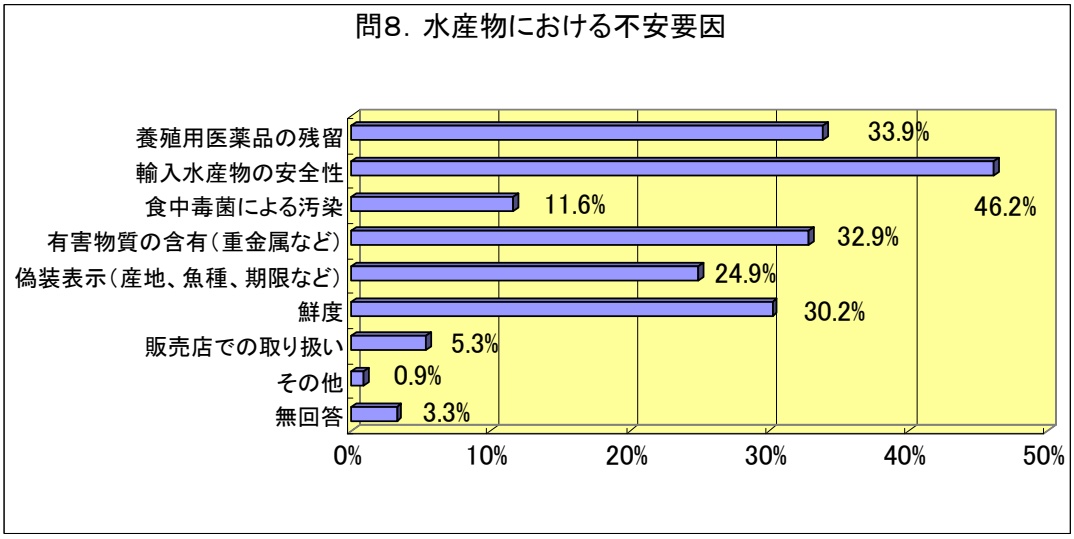
問７．問５で①～②と答えた方で、畜産物（肉類・卵・乳製品など）を購入する際、次にあげる項目で特に不安を感じているものはどれですか？
（２つ以内選択）【回答者数：７６７名　総回答数：１，４４７】

畜産物における不安要因としては１番目が**「輸入肉の安全性」**で６１．０％（４６８名）、２番目が**「偽装表示」**で４１．９％（３２１名）、３番目が**「家畜から人へうつる病気」**で３７．８％（２９０名）でした。
輸入肉の安全性に対する不安が強いのは、米国産牛肉の胸腺混載事例等が影響しているものとみられます。



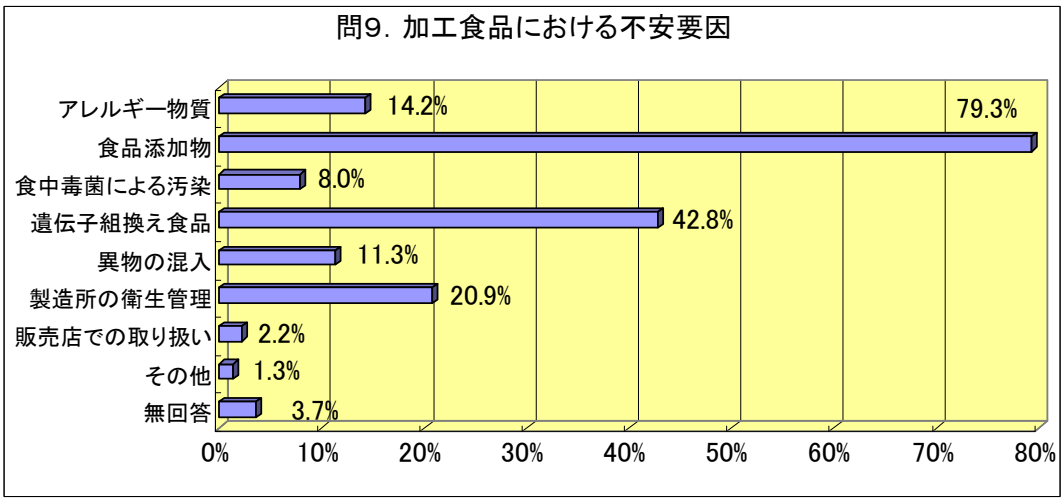
問８．問５で①～②と答えた方で、水産物（魚介類・水産加工品など）を購入する際、次にあげる項目で特に不安を感じているものはどれですか？
（２つ以内選択）【回答者数：７６７名　総回答数：１，４５１】

水産物における不安要因としては１番目が**「輸入水産物の安全性」**で４６．２％（３５４名）、２番目が**「養殖用医薬品の残留」**で３３．９％（２６０名）、３番目が**「有害物質の含有」**で３２．９％（２５２名）でした。
輸入水産物の安全性と養殖用医薬品の残留に対する不安が強いのは、ポジティブリスト制度の施行（平成１８年５月）後、違反件数が大幅に増えたこと等が影響していると考えられます。



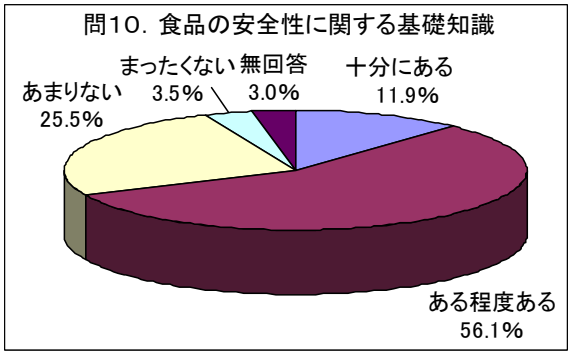
問９．問５で①～②と答えた方で、加工食品（麺類・菓子・調味料など）を購入する際、次にあげる項目で特に不安を感じているものはどれですか？
（２つ以内選択）【回答者数：７６７名　総回答数：１，４０８】

加工食品における不安要因としては、**「食品添加物」**が７９．３％（６０８名）で他を大きく引き離していました。２番目は**「遺伝子組換え食品」**で４２．８％（３２８名）、３番目は**「製造所の衛生管理」**で２０．９％（１６０名）でした。
食品添加物が際だって多いのは、お菓子類やレトルト食品等の加工食品にたくさん入っているのが心配との意見が寄せられており、成長期の子供に及ぼす影響に対して不安を感じていることが要因の一つではないかと思われます。



３）食品の安全性に関する基礎知識

問１０．あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選んだ方が良いかや、どのような調理が必要かについての知識があると思いますか？（１つ選択）



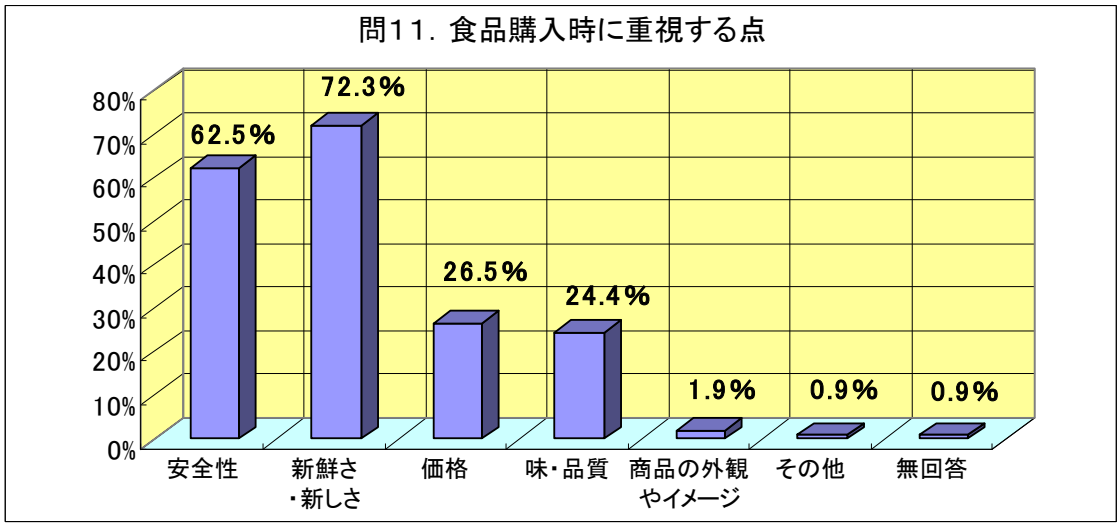
①十分にあると思う	11.9％(112名)
②ある程度あると思う	56.1％(528名)
③あまりないと思う	25.5％(240名)
④まったくないと思う	3.5％(33名)
⑤無回答	3.0％(28名)

３割近くの方が「あまりない」または「まったくない」と回答していますが、健康に生きていくためには食品の安全性に関する知識は欠かすことができないものです。県は今後も食育などにより基礎知識の普及を図ってゆきます。

４）食品購入時に重視する点

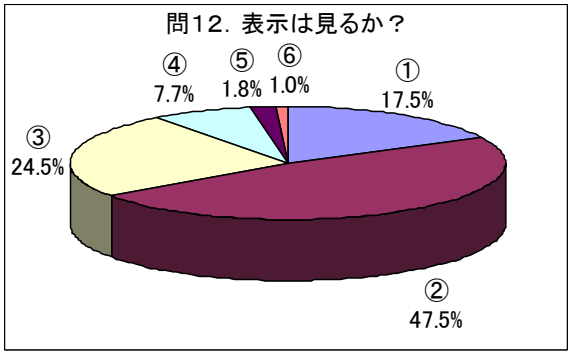
問１１．あなたは、食品を購入する際、次にあげる項目のうち特に気を付けていることはどれですか？（２つ以内選択）【総回答数：１，７８１】

食品を購入する際に重視する点としては、１番目が**「新鮮さ・新しさ」**で７２．３％（６８０名）、２番目が**「安全性」**で６２．５％（５８８名）、３番目が**「価格」**で２６．５％（２４９名）でした。
食品に対して「新鮮さ・新しさ」が最も多く求められていますが、「安全性」が「価格」や「味・品質」を大きく引き離しており、消費者による安全性への意識の高さがうかがわれます。



５）食品表示について

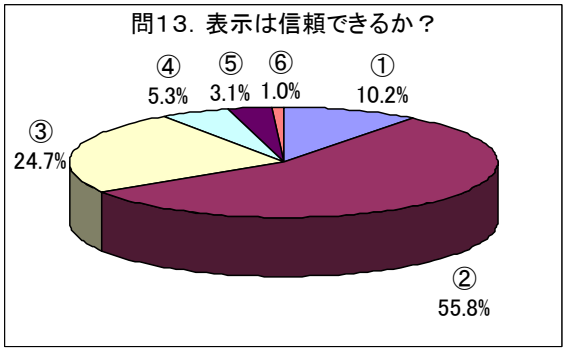
問１２．あなたは、食品を購入する際、表示を見ますか？（１つ選択）



①記載事項はすべて見る　17.5％(165名)
②必要と思うものだけ見る
47.5％(447名)
③品物によって見る　24.5％(231名)
④なんとなく見る　7.7％(72名)
⑤まったく見ない　1.8％(17名)
⑥無回答　1.0％(9名)

食品表示については、その見方に差はあるものの９７．２％の方が表示を確認しています。

問１３．あなたは、食品の表示について信頼できますか？（１つ選択）

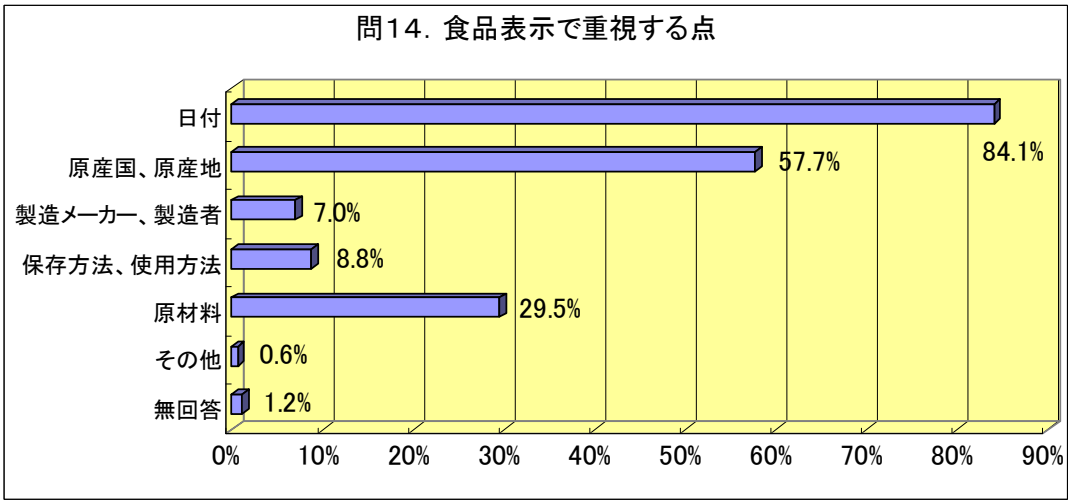


①信頼している　10.2％(96名)
②どちらかというと信頼できる
55.8％(525名)
③どちらかというと信頼できない
24.7％(232名)
④信頼できない　5.3％(50名)
⑤関心がない　3.1％(29名)
⑥無回答　1.0％(9名)

食品表示については６６．０％が信頼できる、３０．０％が信頼できないとの回答でした。

問１４．あなたは、食品を購入する際、食品表示の特にどの項目を見て購入しますか？（２つ以内選択）【総回答数：１，７７８】

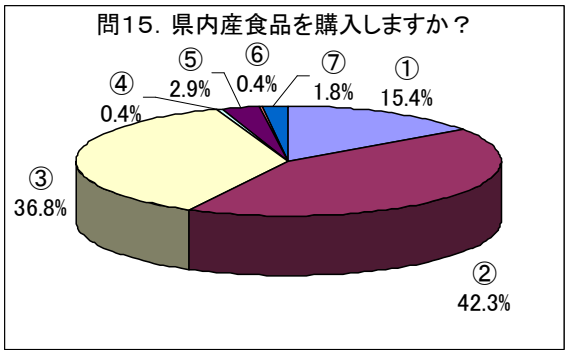
食品表示を見る際どの項目を重視するかの問では、「問１０．食品購入時に重視する点」でも「新鮮さ・新しさ」が１番多かったとおり、**「日付」**を重視するとの回答が８４．１％（７９１名）で際だって多く、最も注目する項目のようです。次いで**「原産国、原産地」**の５７．７％（５４３名）、**「原材料」**の２９．５％（２７８名）でした。



※原材料の表示とは、食品添加物・ｱﾚﾙｷﾞｰ物質・遺伝子組換え食品等の含有の有無、など。

６）「地産地消」及び食品情報の入手について

問１５．地元で生産されたものは地元で消費しようという「地産地消」が近年注目されていますが、あなたは和歌山県産の食品を意識して購入していますか？
（１つ選択）

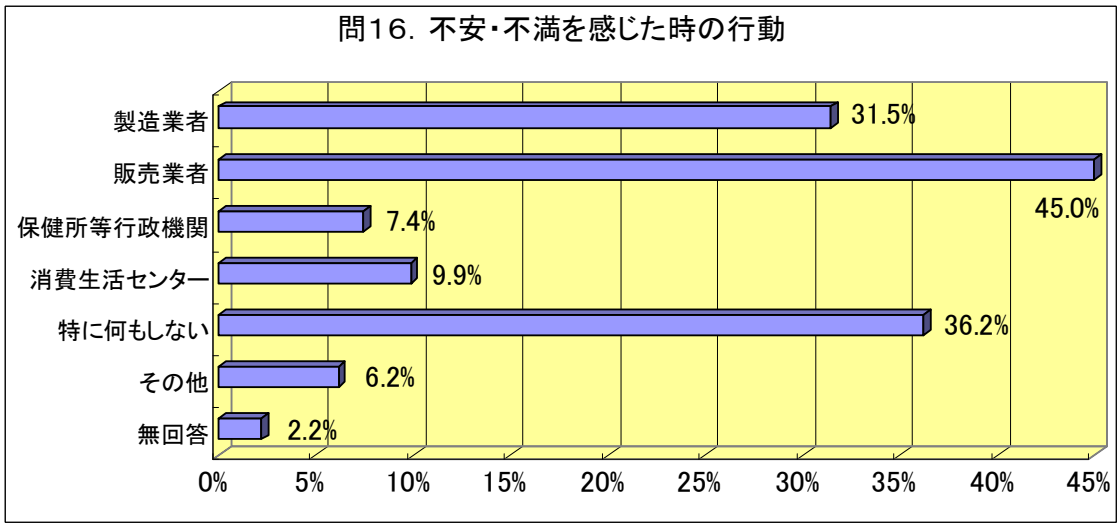


①特に選んで購入する　15.4％（145名）
②どちらかといえば購入する　42.3％（398名）
③特にこだわって購入しない　36.8％（346名）
④購入しないようにしている　0.4％（　4名）
⑤わからない　2.9％（ 27名）
⑥その他　0.4％（　4名）
⑦無回答　1.8％（ 17名）

県内産食品を意識して購入している方が半数以上（５７．７％）であり、地元産品を購入することへの関心の高まりがみられます。

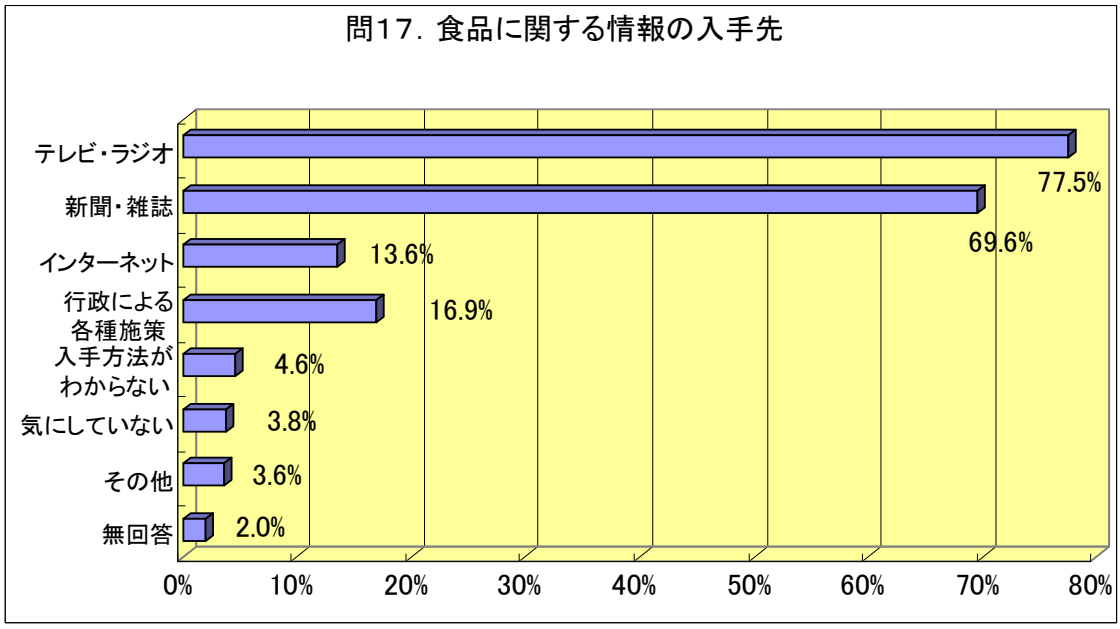
問１６．あなたは、購入した食品に不安や不満を感じた時、どうしますか？
（２つ以内選択）【総回答数：１，３０２】

食品について不安や不満を感じた時の行動としては、最も多かったのが**「販売業者へ問い合わせる」**で４５．０％（４２３名）、２番目が**「特に何もしない」**で３６．２％（３４１名）、３番目が**「製造業者へ問い合わせる」**で３１．５％（２９６名）でした。「特に何もしない」では、買ったものを廃棄処分するとか、再び購入しないようにするという意見もあり、静かな抗議的なものも含まれているようです。
一方、消費生活センターや保健所などへ問い合わせるという回答は比較的少なく、購入時の問題が当事者間の外に出ることは少ないことがうかがわれます。



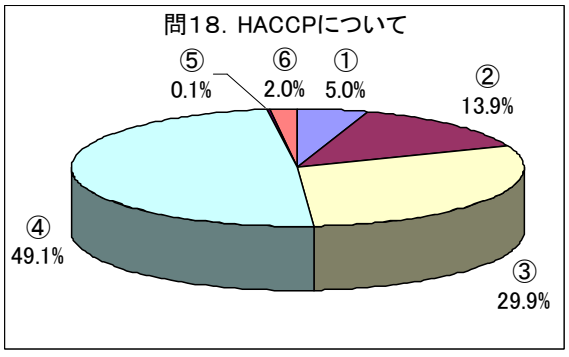
問１７．あなたは、食品の安全性に関する情報をどこから手に入れますか？
（複数回答）【総回答数：１，８０３】

食品に関する情報の入手先については、**「テレビ・ラジオ」**が７７．５％（７２９名）、**「新聞・雑誌」**が６９．６％（６５５名）で、この２項目が際だって多く、この２項目のうち一方でもあげている方が８７．９％（８２７名）あり、行政の情報提供もこれを参考にする必要があります。３番目は**「行政による各種施策」**で１６．９％（１５９名）でした。



７）HACCP 及びトレーサビリティについて

問１８．あなたは、HACCP（ハサップ）について知っていますか？［HACCP とは、安全な食品を生産するための高度な衛生管理の方法］（１つ選択）



①よく知っている　5.0 %（ 47 名）

②少しは知っている　13.9 %（131 名）

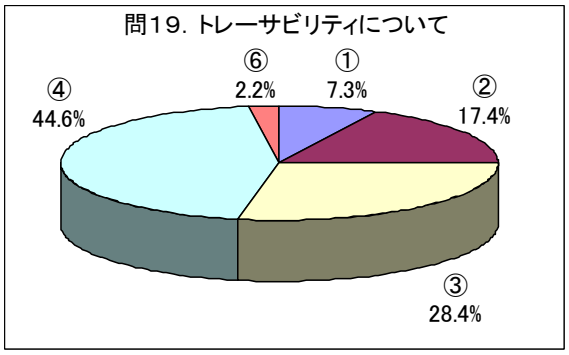
③聞いたことはあるが、よく知らない　29.9 %（281 名）

④まったく知らない　49.1 %（462 名）

⑤その他　0.1 %（ 1 名）

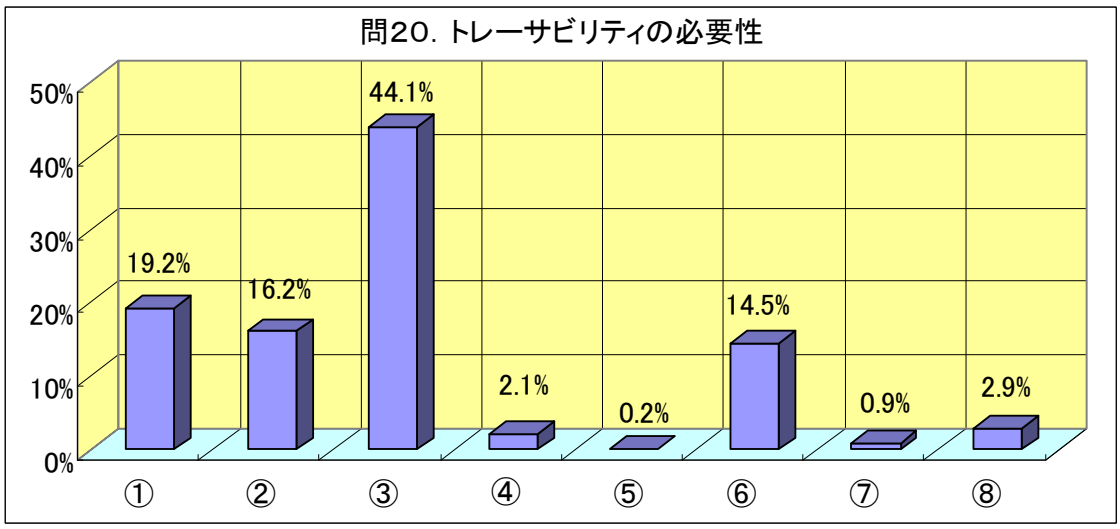
⑥無回答　2.0 %（ 19 名）

問１９．あなたは、トレーサビリティについて知っていますか？［トレーサビリティとは、農畜水産物などがどこで、どのように栽培・生産され、流通されたかを追跡できるシステムのこと］（１つ選択）



①よく知っている	7.3 %（ 69 名）
②少しは知っている	17.4 %（164 名）
③聞いたことはあるが、よく知らない	28.4 %（267 名）
④まったく知らない	44.6 %（420 名）
⑤その他	0 %（ 0 名）
⑥無回答	2.2 %（ 21 名）

問２０．上記トレーサビリティのシステムは、現在一部の大手スーパーなどで実施されており、今後もますます取り組まれていきますが、このシステムについてどう思われますか？（１つ選択）

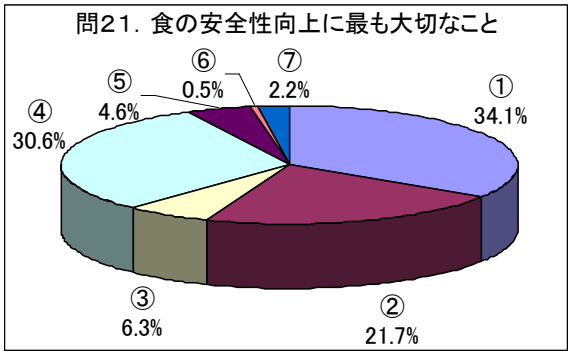


①すべての食品で必要であり活用する	19.2 %（181 名）
②一部の食品では必要で活用したい	16.2 %（152 名）
③そのようなシステムがあれば良いと思う	44.1 %（415 名）
④あまり必要でない	2.1 %（ 20 名）
⑤必要でない	0.2 %（ 2 名）
⑥わからない	14.5 %（136 名）
⑦その他	0.9 %（ 8 名）
⑧無回答	2.9 %（ 27 名）

問１９で「トレーサビリティ」を「まったく知らない」が４４．６％で半数近くを占めていますが、その必要性については**７９．５％の方が「必要」あるいは「あれば良い」**と考えています。

８）食の安全性向上に重要なこと

問２１．次の中で食の安全性の向上に最も大切なことは何だと思いますか？（１つ選択）



①消費者の知識　34.1％(321名)

②業者のコンプライアンス（法令遵守）
21.7％(204名)

③行政の指導　6.3％(59名)

④消費者・業者、行政の協力
30.6％(288名)

⑤分からない　4.6％(43名)

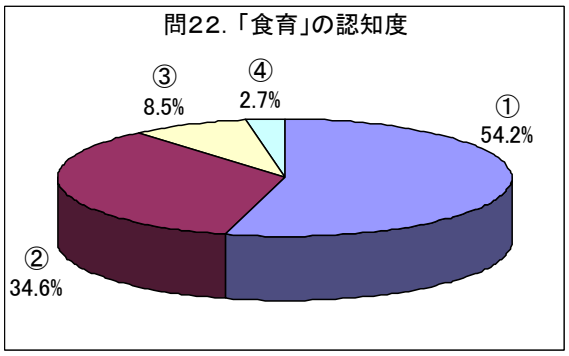
⑥その他　0.5％(5名)

⑦無回答　2.2％(21名)

食の安全性に最も重要なこととして、最も多かったのが**「消費者の知識」**で３４．１％（３２１名）、次いで**「消費者・業者、行政の協力」**で３０．６％（２８８名）でした。３番目は**「業者のコンプライアンス（法令遵守）」**で２１．７％（２０４名）でした。
消費者も「食」に関する正しい知識を習得し、安全な食品を見極める力を身につけ、生産者や事業者、行政と共に食の安全・安心を確保するために行動する必要性を感じていることがうかがえます。

９）食育について

問２２．あなたは、「食育」という言葉やその意味を知っていましたか？（１つ選択）



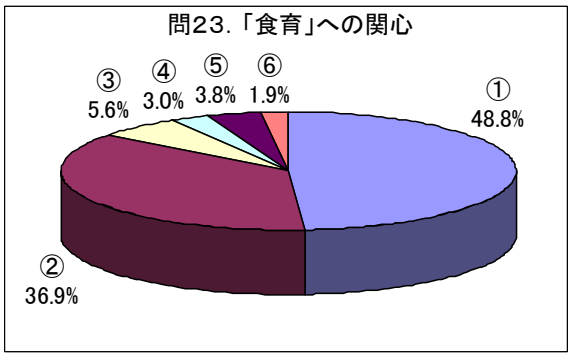
①言葉も意味も知っていた
54.2％(510名)

②言葉は知っていたが、意味は知らなかった　34.6％(326名)

③言葉も意味も知らなかった
8.5％(80名)

④無回答　2.7％(25名)

問２３．あなたは「食育」に関心がありますか。それとも関心がありませんか？
（１つ選択）



①関心がある　48.8％(459名)

②どちらかといえば関心がある
36.9％(347名)

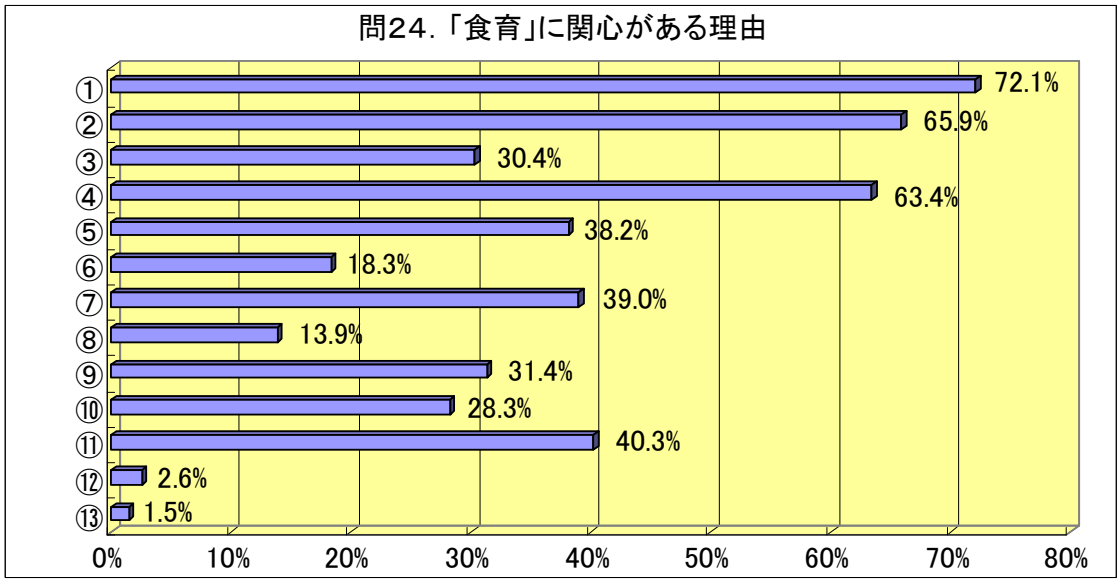
③どちらかといえば関心がない
5.6％(53名)

④関心がない　3.0％(28名)

⑤わからない　3.8％(36名)

⑥無回答　1.9％(18名)

問２４．問２３で①～②と答えた方で、あなたが「食育」に関心がある理由は何ですか？
（複数選択）【回答者数：８０６名　総回答数：３，５９２】



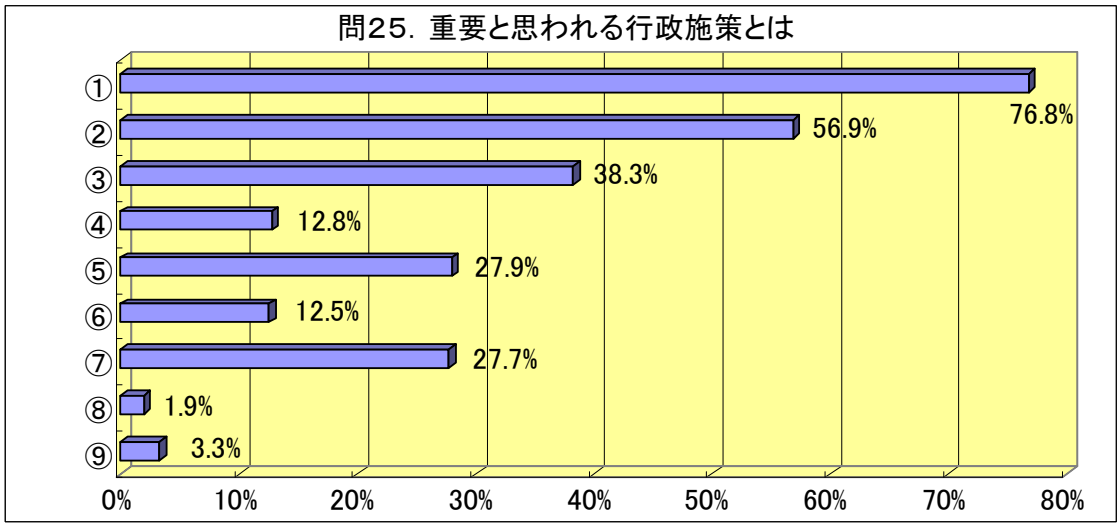
①子どもの心身の健全な発育のために必要だから	72.1％（582名）
②食生活の乱れが問題になっているから	65.9％（532名）
③肥満や、やせすぎが問題になっているから	30.4％（245名）
④生活習慣病の増加が問題になっているから	63.4％（512名）
⑤BSEの発生など、食品の安全確保が重要だから	38.2％（308名）
⑥食にまつわる地域の文化や伝統を守ることが重要だから	18.3％（148名）
⑦食料を海外からの輸入に依存しすぎていることが問題だから	39.0％（315名）
⑧消費者と生産者の間の交流や信頼が足りないと思うから	13.9％（112名）
⑨有機農業など自然環境と調和した食料生産が重要だから	31.4％（253名）
⑩大量の食べ残しなど食品廃棄物が問題だから	28.3％（228名）
⑪自然の恩恵や食に対する感謝の念がうすれているから	40.3％（325名）
⑫その他	2.6％（ 21名）
⑬無回答	1.5％（ 12名）

「食育」に関しては、その言葉については９割近い方が知っており、「関心がある」あるいは「どちらかといえば関心がある」と回答した方は、８５．７％ありました。平成１７年７月に「食育基本法」が施行され、国全体で食育のための取組が本格化し、最近、テレビなどのマスメディアや書物で「食育」が取り上げられることが多くなった結果ではないかと考えられます。

県では、平成１９年度～２３年度を実施期間として和歌山県食育推進計画「食べて元気、わかやま食育推進プラン」を作成しているところであり、本県における食育を県民運動として推進し、県民の関心をより高めていきたいと考えております。

１０）重要とする行政施策及び意見等

問２５．あなたは、食品の安全・安心を確保するための行政施策として何が重要だと思いますか？（３つ以内選択）【総回答数：２，４２９】



①食品検査の強化と結果の公表	76.8％（723名）
②製造所・販売所への立ち入り検査の強化	56.9％（535名）
③農畜水産物の生産者への指導強化	38.3％（360名）
④消費者からの苦情相談	12.8％（120名）
⑤業者の自主管理の推進	27.9％（263名）
⑥印刷物やホームページによる情報の提供	12.5％（118名）
⑦消費者からの意見の収集と施策への反映	27.7％（261名）
⑧その他	1.9％（ 18名）
⑨無回答	3.3％（ 31名）

行政施策として何が重要であるかとの問に対し、最も多かったのが**「食品検査の強化と結果の公表」**の７６．８％（７２３名）、２番目が**「製造所・販売所への立ち入り検査の強化」**の５６．９％（５３５名）で、これらのどちらかを選択した方は８７．２％（８２１名）でした。このことから、食品およびその製造所などの安全性を確認するための監視指導を更に充実していくことが求められていると考えられます。

３番目は**「農畜水産物の生産者への指導強化」**の３８．３％（３６０名）であり、生産現場へも安全・安心の意識の向上を図っていく必要があると考えられます。

問２６．食の安全について日頃感じていることがあれば、どんなことでも結構です。お書き下さい。【記入者数：２８７名】

日頃感じていることを２８７名の方が記入して下さいました。これを下記の項目に分類したところ３９９件のご意見・ご提案となります。ここではその項目ごとに代表的なものを一部ですが紹介します。

（ １ ）農薬（化学肥料含む）に対する不安について　【５３件】

○作物はきれいな方が良いと思うが農薬の使いすぎ等、考えるべきだと思う。
○生鮮野菜、果物、米など農薬の残留など目で見ただけでは分からないので不安を感じています。
○日頃買っている農産物などにどれ位の農薬が使われていて、どれ位残っているのか一度調べて頂けたらなと思います。

○白菜やレタス、キャベツ、よく使う野菜の農薬の残留度が気になる。
○「無農薬」と表示されていても本当かどうか信じられない。色が異常に綺麗だったり濃い色だったりすると「大丈夫か？」と不安になる。
○家では野菜、お米を作っていますが、農薬の残留には特に注意を払っています。
○野菜等で大きく育っていて葉っぱの色も非常に濃いと感じるとき、昔だったら太陽がよく当たっているからだと思いましたが、今だと何か薬をつかっているかなと思ったりしています。

（２）動物用医薬品等に対する不安について　【４件】
○農畜水産物の生産に自然に反した薬物投与等、生産増に力を入れ、消費者に届いた時の安全性を忘れているように思う。
○ BSE、残留医薬品など、人間が生活していく中で最も必要な食がさまざまな危険にさらされていると思います。
○家畜用の医薬品の残留など分からない事がある。

（３）食品添加物に対する不安について　【５１件】
○安い物を作る時の添加物を十分に考えて欲しい。
○食品添加物が基準内で使用されているとは聞きますが健康には問題がないのか非常に気になります（同じ食品を食べ続けることにより）。
○スーパーでは何を買っても添加物が入っているので自然食品を購入したいと思ってもなかなか難しい。
○今どこのお家でも毎日の食卓に冷凍食品が多く出ているので添加物が気になる。
○加工食品について添加物が何がどれだけ入っているのかわからないので、また、表示されているものが何かわからないのがとても不安です。
○いつまでも腐らないお菓子類はどれだけ沢山の添加物が入っているのか？と不安。
○食品添加物の単品だけの安全性だけでなく複合摂取の場合の安全基準と情報の開示。
○添加物ですが知識が無いため、例えば焼きそばの蒸し中華麺、これだけでもこんなに入っているのかと思うほど入っているのに驚いてます。やはりこれだけ入れないと消費者が買わないのか不思議です。
○家庭科の授業で見た食品添加物の危険性についてのビデオを見て､とても怖くなった。

（４）輸入食品に対する不安について　【４９件】
○輸入食品に一番不安を感じています。
○最近、中国からの輸入が多いですが、特に野菜の農薬の残量等、気になります。
○輸入食品が多い中、安心して安全な食品を食べたいものです。
○なるべく国内産の食品を選んでいますが、スーパーなどでの表示が正しいのか不安です（特に安価な物）。
○生野菜でもあらゆる国から輸入していて日本のが本当に少ない様に思います。生産者がはっきり分かり安心して食べられるようにしていただけたらと思います。
○米からの牛肉の安全性に疑問。
○食品については出来るだけ日本産でまかないたく思っております。
○地産地消が理想的ですが、スーパーに輸入品があまりにも多く出ているのが、いろんな意味で不安です。

（５）遺伝子組換え・クローン食品に対する不安について　【４件】
○クローン牛・遺伝子組替えなど、今、安全に口にできるものが少なくなってきていることが不安です。

（６）食品表示適正化に対する不安や要望について　【３６件】
○消費期限を上記記載、底面に記載表示されているが日付の確認出来ないで困ることもあるので消費期限と印字した横あたりに表示してほしいと思います。
○食品表示を見る時、字が小さすぎて見にくかったり、一つ一つの内容がわからない、理解できない事が多すぎる。
○食品表示を見て購入しているが偽装表示等があれば全く意味がなくなるので業者や販売店を信用するしかないのが現状です。
○消費者は表示に書かれてあることを信じるしかないので、その点のチェックを厳しく正しくして欲しい。
○賞味期限の表示をもっとわかりやすく見える所に書いて欲しいといつも思います。

○輸入品は国名だけの表示では、消費者として信頼できない。
○品質表示などは、一方的なものなので、信頼するしかありません。信頼できるような正しい表示を心がけて頂きたいと思います。
○製造年月日の偽装表示や産地偽装、判明するたびに腹立たしさを感じています。安心して（信用できる）購入できる様になって欲しいです。

（７）検査体制の強化に対する要望等について　【１１件】
○行政は輸入食品についてしっかり検査をして国民の健康に間違いなく寄与出来るようにして欲しい。
○企業も営利が必要ですが、食の安全を基本として行政も検査指導の強化をお願いしたい。消費者も食の安全の自覚が必要ですが、日々の食生活については信用して買うことしか出来ないから。
○販売されている食品は常に安全だと思いこんでいる所があって深く考えた事は余りありませんでした。今後も食品検査を強化して頂き安全な食品を販売していただきたいと思います。
○安心して食品を購入できるよう食品検査及び製造所、販売所への立ち入り検査の強化をして頂きたい。

（８）生産者・事業者のモラル向上に対する意見・要望について　【２０件】
○食に関係しているものは、常に衛生面に心をくばって仕事すること。事故が起きてから色々といっても遅いと思う。
○農畜水産物の生産に自然に反した化学肥料、薬物投与等、生産増に力を入れ、消費者の届いた時の安全性を忘れているように思う。
○偽装表示、食品安全管理、余りにも非人道的な事故があって報道され初めて私達消費者が知るのです。利益優先ばかりの企業ではなく人命を預かっている商売だと言う事を各々自覚して欲しいと思います。
○新聞、雑誌などでニセ食品についての記事などを読み不安に思っている。

（９）消費者育成の必要性等について　【３２件】
○少しの野菜を作って出荷していますが、きれいな野菜でないと売れません。消費者の自覚も必要だと思います。
○消費者が自ら勉強しないで､安全を人まかせにしていることがダメなんだと思います。
○食の安全性向上のためには業者や行政だけでなく消費者自身の意識や働きかけも大事だと思います。自分で食べるものは人まかせにせず、安全性を確かめる努力は必要だと思います。
○食中毒は家庭でも起こりますが予防する事、気を付けることがわかりません。
○生きていく為に必要な「食」。毎日当たり前のように口にしていますが、少し食育の安全性を一人一人が意識することで消費者全体で、行政、生産者に問いかけができるのではないでしょうか？
○食に対する意識を高めるためには、自分で作ることである。
○食育を通じて食生活を見直す事で食の安全につながると思います。また、食品についてやみくもに不安になるのではなく、知識をもとに自分達の食について考えれば、結局、肥満の人や食べ残しも減るように思います。
○生産者はもちろんのこと消費者においても常に食の安全についての意識を高める事が大切と思います。
○ TV、雑誌、インターネット、身近に情報があふれ食育や健康に関心が集まりだして、食の安全は随分と意識されだしていると感じる。消費者の意識の高まりが一番、安全を追求する上では効率的で効果的だと思う。食育は人として基本的な知識として行われるべきであり、どんどん推進していって欲しい。

（１０）行政施策への要望等について　【３９件】
○最近、食に関する認識度が高くなってきています。でもまだまだアレルギーで悩んでいる人、生活習慣病で悩んでいる人、多くいます。多くの学習会を開いて一人でも食の安全への認識を高めていってほしいです。
○自給できない限り製造・販売業者を信用せざるを得ず、その信用を確かなものとするための行政の役割は大きいと思います。

○最近よく地元で生産された野菜や果物に生産者名が明記されたものを見かけますが、そのように生産者や業者が責任を持って、食品を消費者に提供していけるようなシステム、行政によるチェック機能を強化していただければと思います。
○安全だと思う物は高いという印象があります。主婦が、いかに安く安全な食物を必要としているのか、行政の方は分かっているのでしょうか？安く・おいしく・安全が気軽に選べる時代になって欲しいものです。
○食育についてもっと積極的に行政が取り組んで頂きたいし、消費者が知識を高めるように行政の取組を願います。

（１１）正しい情報発信への要望等について　【１７件】
○消費者も食の安全性について自ら情報を収集していく事がこれからは重要になってくると思いますが、行政でもその事をバックアップして頂き、生産者・消費者に正しい情報を提供して頂きたいです。
○入ってくる情報が多すぎると本当はどうなのかわからなくなります。「食べるな危険」という本に書かれていることは全て本当なのかどうか、消費者の判断しかねることが、多々あります。
○外国からの輸入が増える中、安全性がとても心配です。きちんとした（真実）の情報提供をして欲しいです。
○製造業者、販売業者は消費者に分かりやすく食の安全を伝える義務がある。
○行政、業者、消費者間の意思疎通が十分でない。
○食の安全について人それぞれ考える事が必要。その為にはしっかりとした知識が必要。これは今のテレビなどの偏った情報提供では全く足りない。

（１２）その他の意見・要望等について　【８３件】
○食べ物についての無駄が多いように思います。もったいないです。特に若い世代にはそういう気持ちを持つように教えていかなければと思っています。
○忙しいと加工食品や冷凍食品をよく買ってしまいます。そのためにも食品の選び方に気を付けています。
○和歌山県は自然に恵まれた良い環境があり、海、川、山、全て身近にあります。これらを活かして農林水産物の地産地消を手頃な価格でもっと普及していただきたいと思います。
○幼少の頃より”食”についての教育を徹底することが、食の安全へとつながってくるのではないでしょうか。今後の教育へと期待したいです。
○すぐ食べられる加工食品が多くなり野菜も安くなり良い点も有りますが、原点に戻って良い材料でもっと料理すべきだと思います。